

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中学園	校長	池田 哲哉	生徒指導主事	上 旬 亨
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『府中学園人権週間』

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「思考力・判断力・表現力」	3	「主体性・積極性」	1	「自己理解・自らへの自信」	2

取組のねらい

- ・他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止めることができるようになる。
- ・他者への配慮が自然に態度や行動に現れてくるような人権感覚を育成する。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『自然なつながりを生む』
<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の児童生徒会スローガンである「絆～支え合い、認め合い、笑い合う～」の実現を目指し、学園全体でできる取組を児童生徒会執行委員が話し合った。 絆を深める → 人とつながる → 人を大切にす る → 人権の尊重 という結論になり、12月10日の世界人権の日に合わせた取組を行った。 ・児童生徒会執行委員がステージ朝会で取組のねらいを伝えた。 ・日常生活の中でクラスメイトから受けてうれしく感じた言葉や行動を紙に書いた。 ・有志の児童生徒で学年ごとに学年の仲間が書いた紙を模造紙に貼り付け、掲示物を作成した。 ・学園朝会で、仲間外れやいじめといったテーマで児童生徒会執行委員が劇を行い、日常の中にある人権意識の高揚を図った。 ・全児童生徒が見ることのできる場所へ掲示した。 ・その後、各学年エリアに掲示し、1週間ごとに様々な学年の掲示物を見ることができるようローテーションした。 	<p>『主体性の集大成』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒会執行委員に児童生徒会スローガンを実現させるための取組を考える中で、学園全体で取り組める内容を考え、伝えるための方法として選んだ劇の内容も児童生徒が考えた。学年の掲示物も有志によって作成した。 <p>『学年に応じた伝え方』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～4年生…人権という言葉を使用しない。 ・5～7年生…人権という言葉の説明した。 ・8・9年生…世界中の人権の取組に目を向けさせた。 <p>『交流の場を生む』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員室前に掲示することで、児童生徒同士の交流だけではなく、職員との交流の時間も生まれた。



児童生徒会による劇

登校時に5年生の担任と児童が2年生の掲示物の前で意見交流



取組の成果と課題

<ul style="list-style-type: none"> ・「人権」という言葉にこだわることなく仲間のよさや頑張り、感謝の言葉を伝えあえるような取組をステージや学年・学級単位で行い、温かな雰囲気が広がった。 ・固定された学年ではなく、学校全体の取組として広げていく。 	<p>「キラリ」という言葉で表現</p> <p>学園生活最後の文化祭 仲間を「キラリ」がらびたい</p> <p>5年生</p> <p>9年生</p>
---	--